

2021 年卒学生の職業意識とインターンシップに関する調査

キャリア就活 2021 会員 2019 年 5 月調査

インターンシップを導入する企業が増え、早期から就職活動の準備に取り組む学生も増加傾向にある。ディスコでは、キャリア就活 2021 登録学生（2021 年 3 月卒業予定者）を対象に、インターンシップの参加意向や就職に関する意識などを調査・分析した。

《目次》

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. インターンシップ参加意向 | 6. 現時点で興味のある仕事・業界 |
| 2. インターンシップ参加方針 | 7. 興味を持ったきっかけ |
| 3. 参加したいインターンシップ | 8. 採用選考における学業の評価 |
| 4. インターンシップ参加予定時期 | 9. 就職戦線の見方 |
| 5. インターンシップ参加企業を探す手段 | |

《調査概要》

調査対象 : キャリア就活 2021 会員
(2021 年 3 月卒業予定の全国の大学 3 年生・大学院修士課程 1 年生)

調査時期 : 2019 年 5 月 22 日 ~5 月 27 日

調査方法 : インターネット調査法

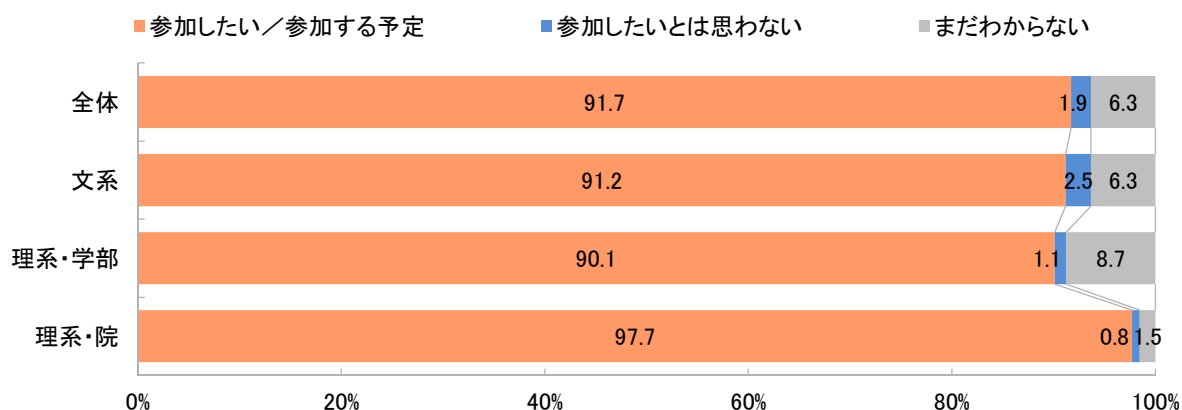
回答者数 : 1077 人 (文系 682 人、理系・学部生 263 人、理系・大学院生 132 人)

調査機関 : 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

1. インターンシップ参加意向

大学 3 年生（修士 1 年生）の 5 月下旬時点でのインターンシップ参加意向を尋ねたところ、「参加したい／参加する予定」が 9 割を超え（91.7%）、高い参加意欲が明らかになった。

＜インターンシップ参加意向＞



DISCO はたらくを、もっと豊かに。

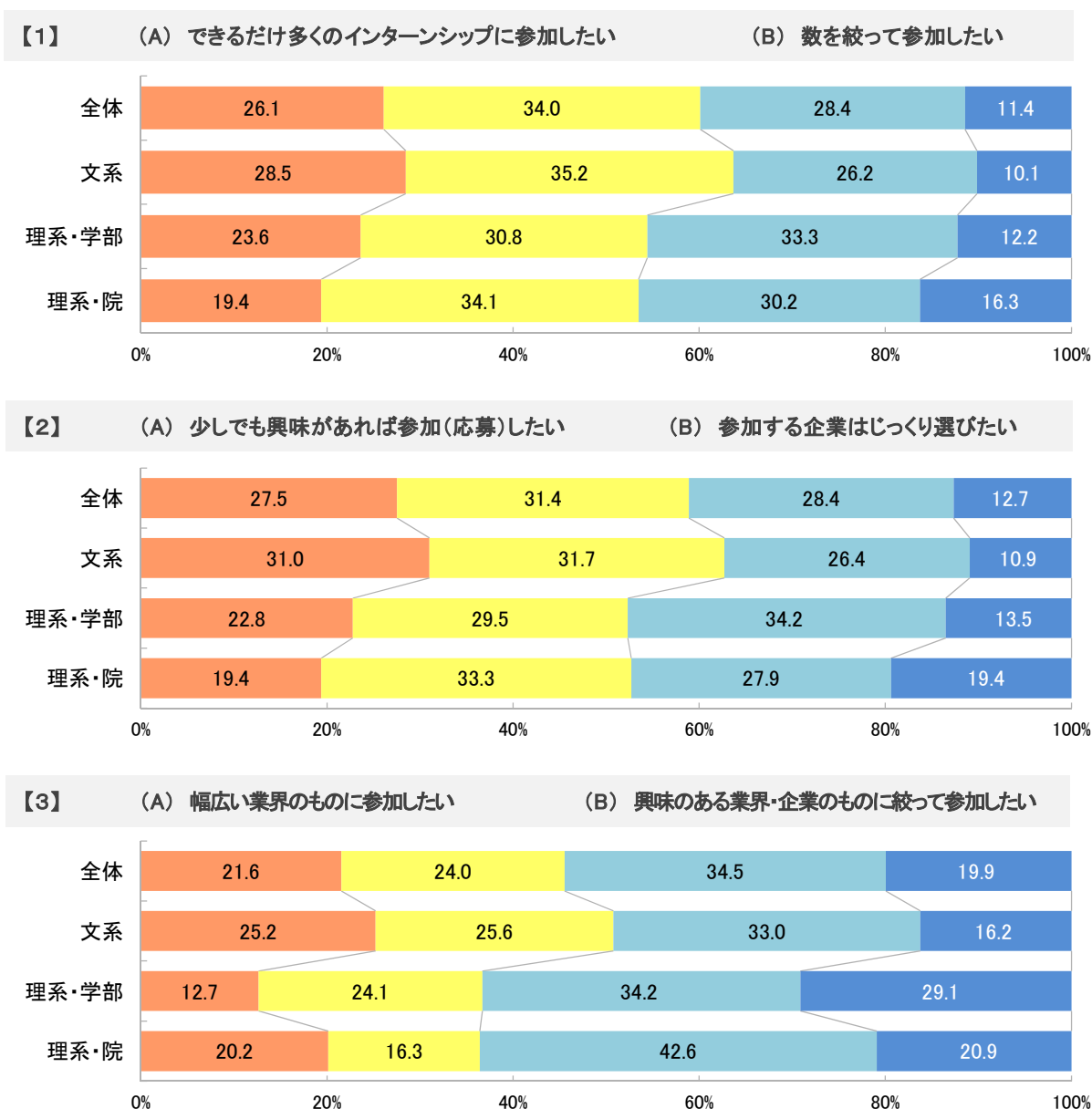
2. インターンシップ参加方針

インターンシップ参加意向のある学生（全体の91.7%）に、参加方針について、3つの指標で尋ねた。まず、「できるだけ多くのインターンシップに参加したい」が合計で約6割に上り、「数を絞って参加したい」（計39.8%）を大幅に上回った。「少しでも興味あれば参加したい」が約6割（計58.9%）に対し、「参加する企業はじっくり選びたい」は計41.1%で、積極的な姿勢がうかがえる。

ただし、「幅広い業界のものに参加したい」（計45.6%）よりも「興味のある業界・企業のものに絞って参加したい」（計54.4%）が上回り、現時点で興味のある業界を中心に参加企業を探す学生が多い。特に理系では、学部生・院生ともに6割を超えており、絞り込みの傾向が顕著。

<インターンシップ参加方針>

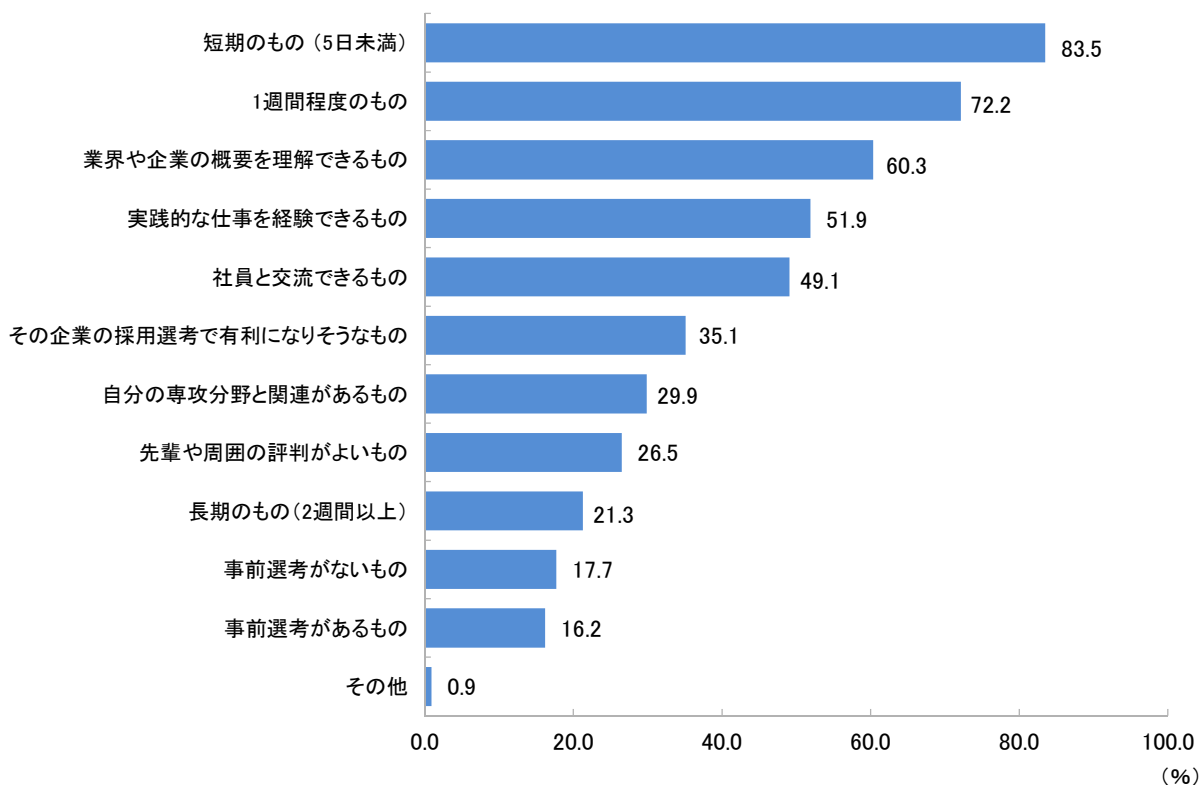
■ AIに近い ■ どちらかというAに近い ■ どちらかというBに近い ■ Bに近い



3. 参加したいインターンシップ

次に、どのようなインターンシップに参加したいかを尋ねた。最も多いのは「短期のもの（5日未満）」で8割超（83.5%）。「1週間程度のもの」（72.2%）、「業界や企業の概要を理解できるもの」（60.3%）が続く。一方「長期のもの（2週間以上）」は約2割にとどまっており、現時点では、幅広く様々な業界や企業を知るために、比較的開催期間が短いものにたくさん参加したいと考える学生が多いことが読み取れる。

＜参加したいと思うインターンシップ＞

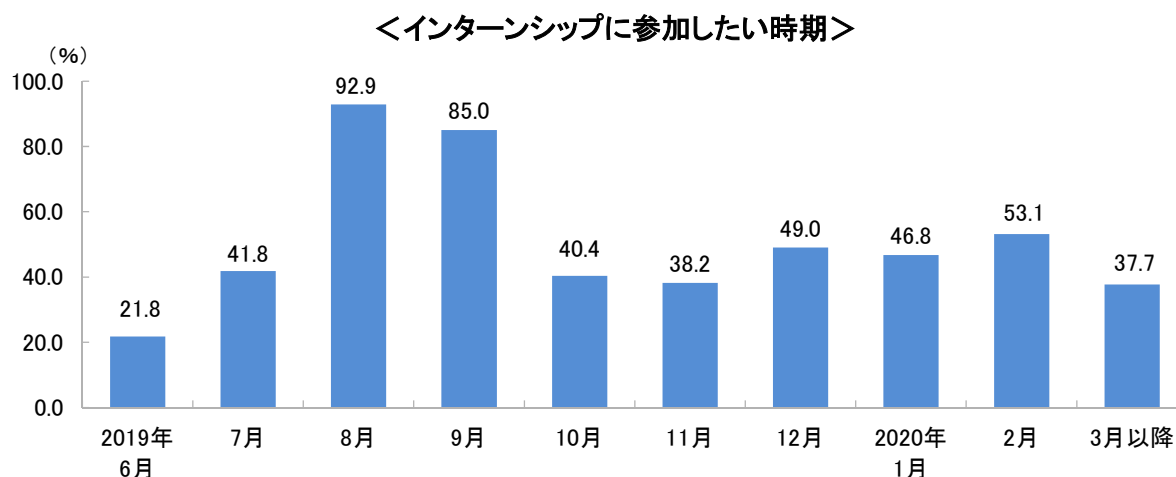


■インターンシップで期待する成果

- 今までよく知らなかった業界のことを深く考えるチャンスにしたいです。 <文系女子>
- 社会への関心や知識を増やし、視野を広げたい。 <理系女子>
- 興味のある業界や職種を見つけられることや、働くことに対するイメージをもつこと。 <文系女子>
- 社会人としてどのような能力が必要なのか、身をもって経験できれば最高です。 <文系男子>
- できるだけ多くの業界や企業のインターンシップに参加し、その企業や社員の雰囲気自分に合っているかどうか判断できること。 <文系女子>
- 企業や業界についてや、今の自分に足りないことなど、新しい発見をしたい。 <理系女子>
- 前半では、業界分析を大まかにしたいと考えていて、さらに自己分析や自己成長ができればと考えている。
後半は、企業研究をより詳細に行って、自分の志望企業を決定する。 <理系男子>
- 自分の性格や得意不得意を、インターンを通して仕事にあてはめてみて、その企業が自分に合うかどうかを見極めようと考えています。 <文系男子>
- 業界で働く人の本音を聞くこと。 <理系男子>
- 自身と合いそうかを感じられるくらいには、参加した企業の特徴が掴めること。 <理系女子>
- 人事部の方に自分を知ってもらうこと。就活に切磋琢磨する仲間と出会うこと。 <文系女子>
- 会社の雰囲気を理解し、会社の方々の役に立ち、社員と仲良くなれること。 <理系男子>
- 実際に就職活動をする際に、有利になることを期待しています。 <理系女子>

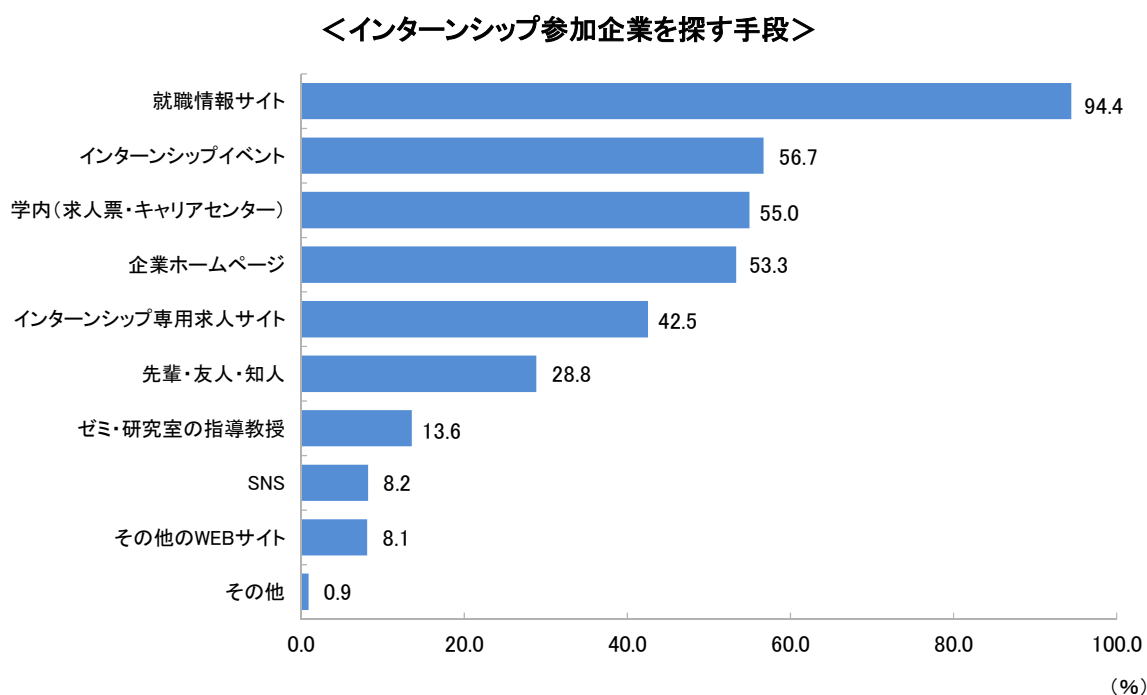
4. インターンシップ参加予定時期

インターンシップに参加したい時期を尋ねたところ、「8月」(92.9%)、「9月」(85.0%)に集中しており、現時点では、夏季休暇中のインターンシップ参加に焦点をあてている学生が多いようだ。ただし、「2月」が5割を超えるなど(53.1%)、早くも冬の参加を考えている学生も少なくない。



5. インターンシップ参加企業を探す手段

インターンシップ参加企業を探す手段について、今後の予定を含めて尋ねたところ、「就職情報サイト」が突出して多い(94.4%)。続く「インターンシップイベント」「学内(求人票・キャリアセンター)」「企業ホームページ」もそれぞれ半数以上の学生が選んでおり、様々な手段を活用して、参加企業を探したいと考えていることがわかる。

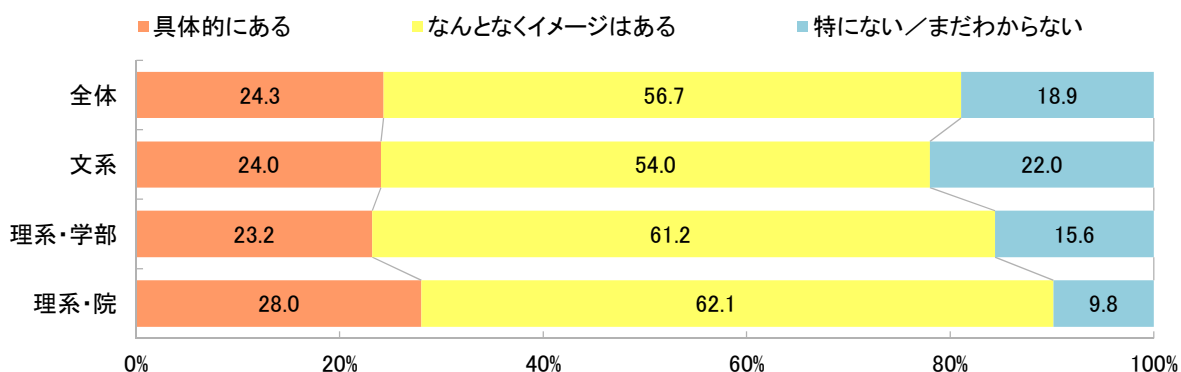


6. 現時点で興味のある仕事・業界

大学3年生（修士1年生）の5月下旬時点で、興味のある仕事や、やりたい仕事があるかどうかを尋ねた。「なんとなくイメージはある」が半数超（56.7%）と最も多く、「具体的にある」は24.3%にとどまった。現段階では志望業界ややりたい仕事が明確になっていない学生が大半であり、これから志望を固めていくためにも、インターンシップに積極的に参加したいと考えているのだろう。

属性別に見ると、文系より理系で、仕事のイメージを持っている学生が多い。特に理系・院生では「具体的にある」「なんとなくイメージはある」を合わせて9割に上るのに対し（90.1%）、文系では78.0%。

<現時点で興味のある仕事・やりたい仕事の有無>



現時点で興味を持っている業界を、10分類の中から3つまで選んでもらった。文系の1位は「サービス」で、4割強（44.2%）が選んだ。2位「メーカー」（36.9%）、3位「商社」（32.1%）が3割台で続き、比較的ポイントが分散している。理系は、学部生・院生ともに1位「メーカー」2位「IT・情報処理」だが、院生は8割以上が「メーカー」を選んでおり、突出しているのが目立つ（85.9%）。

<現時点で興味がある・働いてみたいと思う業界>

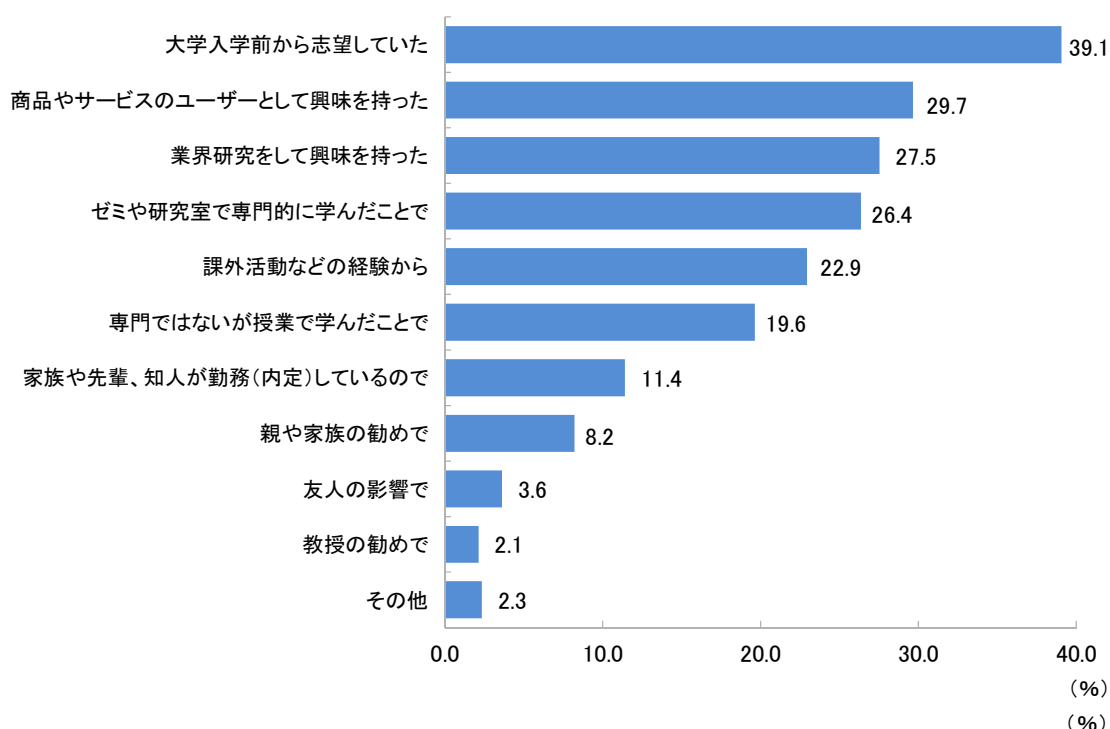
		※3つまで選択 (%)						
全 体		文 系		理系・学部		理系・院		
1	メーカー	48.1	サービス	44.2	メーカー	55.3	メーカー	85.9
2	サービス	34.1	メーカー	36.9	IT・情報処理	35.5	IT・情報処理	26.6
3	IT・情報処理	24.1	商社	32.1	サービス	18.9	エネルギー	23.4
4	商社	22.7	情報 (通信・マスコミ)	23.4	官公庁・団体	16.7	サービス	15.6
5	情報 (通信・マスコミ)	19.9	金融	20.1	情報 (通信・マスコミ)	15.8	情報 (通信・マスコミ)	11.7
6	官公庁・団体	16.4	IT・情報処理	19.1	エネルギー	13.2	官公庁・団体	10.9
7	金融	14.6	官公庁・団体	17.5	商社	8.8	運輸・倉庫	6.3
8	エネルギー	8.7	流通	12.0	運輸・倉庫	7.5	商社	4.7
9	流通	8.6	運輸・倉庫	8.1	金融	7.0	金融	3.1
10	運輸・倉庫	7.7	エネルギー	3.8	流通	4.4	流通	0.8

7. 興味を持ったきっかけ

興味を持つ仕事や業界があると回答した学生に、そのきっかけを尋ねた。最も多いのは「大学入学前から志望していた」で4割近くに上る(39.1%)。「商品やサービスのユーザーとして興味を持った」が約3割で続く(29.7%)。これからインターンシップへの参加や、業界研究を進めていく中で、志望業界や就きたい仕事が変わっていく学生も多いと推測される。

属性別に見ると、理系・学部生で「大学入学前から志望していた」が半数を超え、就職を見据えた進路選びをしている学生が多いことがうかがえる。理系・院生では、「ゼミや研究室で専門的に学んだことで」が6割を超えており(65.4%)、より具体的な研究内容や専門性を生かした就職を考える学生が多いことがわかる。

＜その仕事・業界に興味を持ったきっかけ＞



		全 体	文系	理系・学部	理系・院
1	大学入学前から志望していた	39.1	34.6	52.0	36.2
2	商品やサービスのユーザーとして興味を持った	29.7	33.4	23.6	23.6
3	業界研究をして興味を持った	27.5	30.5	19.7	28.3
4	ゼミや研究室で専門的に学んだことで	26.4	20.0	21.0	65.4
5	課外活動などの経験から	22.9	26.9	20.1	10.2
6	専門ではないが授業で学んだことで	19.6	18.1	24.0	18.9
7	家族や先輩、知人が勤務(内定)しているの	11.4	12.0	8.7	13.4
8	親や家族の勧めで	8.2	10.8	4.8	2.4
9	友人の影響で	3.6	3.3	3.9	4.7
10	教授の勧めで	2.1	2.2	1.7	2.4
11	その他	2.3	2.6	2.6	0.8

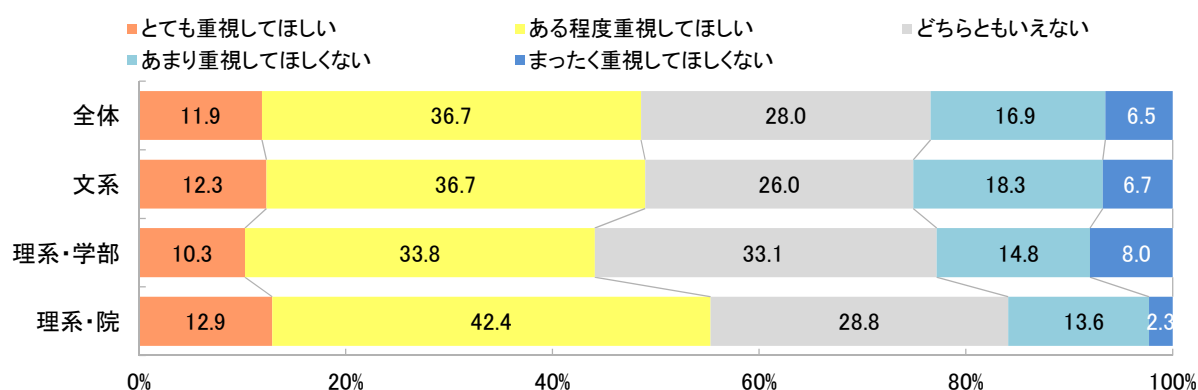
8. 採用選考における学業の評価

採用選考において、「大学での成績」と「専門知識／専攻分野」をどの程度重視してほしいか、考えを尋ねた。

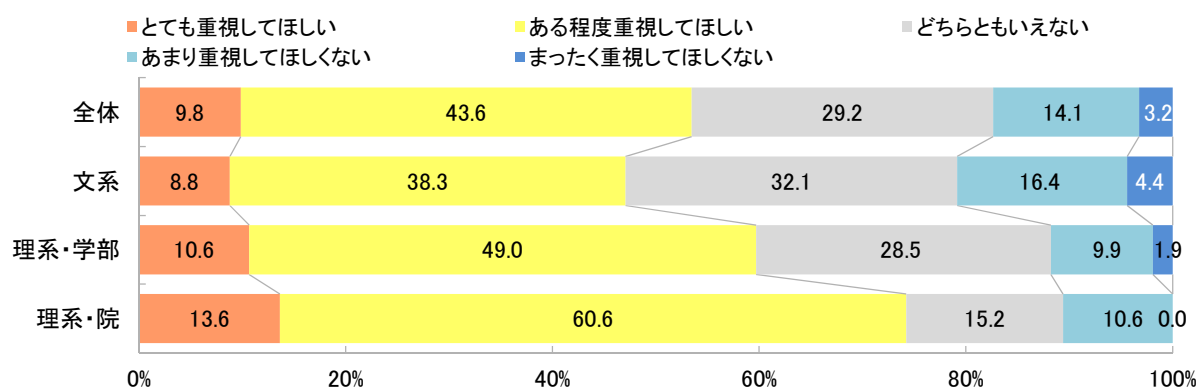
まず「大学の成績」については、「とても重視してほしい」（11.9%）と「ある程度重視してほしい」（36.7%）を合わせると約半数（計48.6%）。一方、「重視してほしくない」は合わせて23.4%で、4人に1人未満にとどまった。

「専門知識／専攻分野」については、「とても重視してほしい」「ある程度重視してほしい」を合わせて5割強（計53.4%）。理系・院生では「重視して欲しい」の合計が7割を超える（計74.2%）。ここでも、理系・院生が、専門性を活かした就職を意識していることがうかがえる。

＜採用選考の際で【大学の成績】を重視してほしいか＞



＜採用選考で【専門知識／専攻分野】を重視してほしいか＞



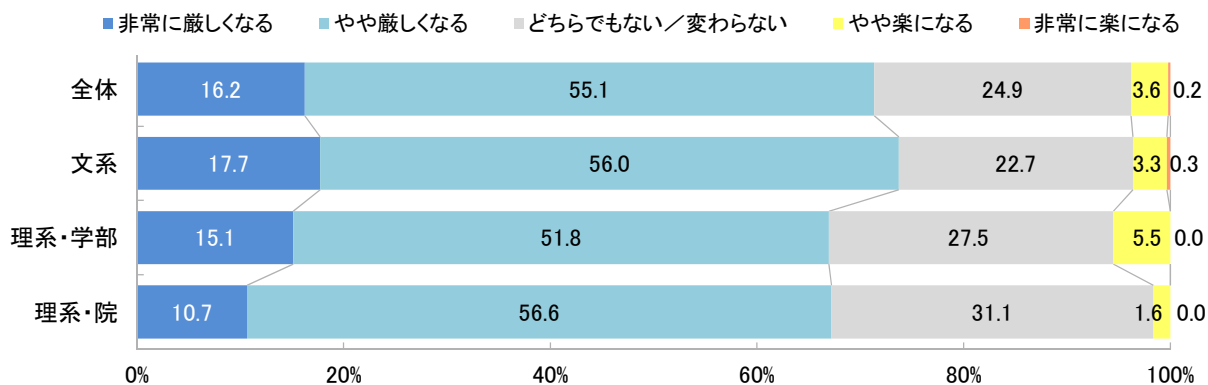
■就職活動について思うこと

- インターンシップや企業説明会など、興味があることには参加し、早めに内定が決めれば良いと考えています。 ＜文系男子＞
- 就活は情報戦なので多くのOBの方達と話したい。 ＜理系男子＞
- ブラック企業に関する話題が多くなっておりとても心配。 ＜文系男子＞
- 地方在住なので、東京や大阪に就活に出向く予定だが、長期の就活に耐えられるよう、交通費補助のあるものを優先的に選んでいる。 ＜文系男子＞
- 学業と上手く両立して就活していきたい。 ＜文系女子＞

9. 就職戦線の見方

自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たち(2020年卒者)に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」16.2%、「やや厳しくなる」55.1%で、厳しくなると見ている者の合計は7割を超える(計71.3%)。コメントからは、経団連の指針が廃止されることによる混乱のほか、オリンピックの影響、米中貿易摩擦をはじめとした世界経済の悪化など懸念する声が多く見られた。こうした危機感の高さが、早期からの就職活動準備につながっていると考えられる。

<就職戦線の見方>



「厳しくなる」と見る理由

- オリンピックがあるので、内定を出す時期などが早まると考える。 <文系男子>
- オリンピックが終わった後の入社なので、企業全体が採用の数を減らしそう。 <文系女子>
- 東京五輪開催後の消費の冷え込みと消費税増税で景気が悪化するから。 <理系男子>
- 米中貿易摩擦の影響で、経済が減速する可能性があるから。 <文系男子>
- 早期化しているので、波に乗り遅れた学生は大変な気がする。 <文系男子>
- 経団連のルールがなくなった以上、どうなるかわからないから。 <文系女子>
- 能力のある人間を欲しがると傾向が強くなってきている。新卒即戦力というハードルを越えられるほどの実力をつけられるか不安。 <理系男子>
- 銀行など募集人数を減らしてきている企業もあり、その業界を狙っている人にとってはきつくなるから。 <文系女子>
- IT化・機械化が進むことで人手を必要としなくなり、その分企業側が欲しい人材を厳選できるようになると思う。 <文系男子>
- 今は外国人労働者も増えているため採用数が減り、新卒でも厳しくなるのではないかと思います。 <文系女子>

「変わらない」と見る理由

- 売り手市場と呼ばれていることには変わりはなく、また選考解禁時期など就活のスケジュールも特に大きな変更はないから。 <文系女子>
- オリンピック開催間近で、また大阪万博開催も決定し、リーマンショックの頃や就職氷河期と比べると景気が非常に良いため。 <理系男子>
- 景気が悪くなると言われているが、少子化の影響で人手不足は変わらないため関係ないと思っている。 <理系男子>